

<トピックス2>
米国経済統計ウォッチ

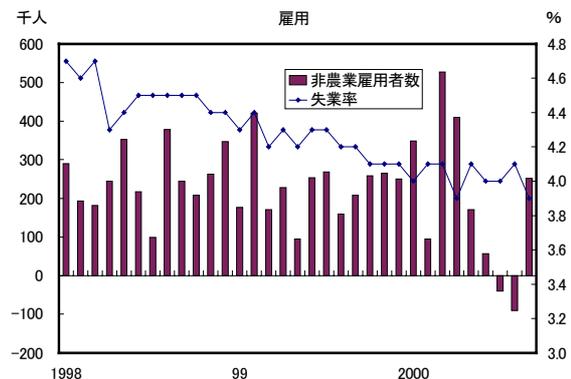
研究員：山田 剛史（やまだ つよし）

Email: yamada@nli-research.co.jp Tel: (03)3597-8537

米国経済は一部に減速の兆しがみられるものの、依然潜在成長率を上回る伸びを続けている。雇用のひっ迫を背景に消費活動は旺盛である。企業は景況感に鈍化の兆しがあるが設備投資は高い伸びを続けている。内需の強さと原油価格の上昇にもかかわらず、生産性の向上によりインフレは落ち着いている。IT革命の海外での波及に伴い、輸出は増加傾向にあり、貿易赤字の改善に寄与している。金融市場は収益が予想を下回ったことから株価が下落しているが、景気の現状から判断すると、大きな調整はないと考えられる。

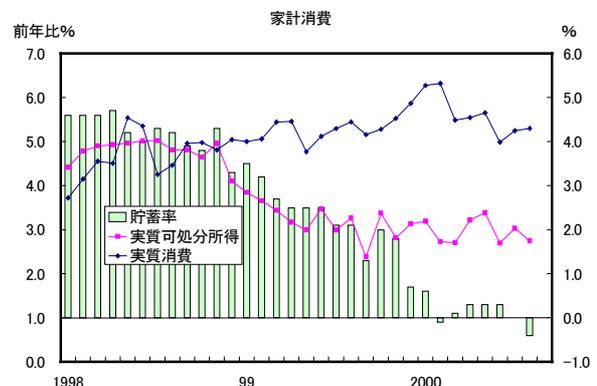
【雇用】

9月の非農業雇用者数は+252千人となり、3ヵ月ぶりにプラスに転じた。特殊要因を考慮しても雇用のひっ迫は続いている。失業率は4月以来の3.9%となり、過去30年間で最低水準にある。賃金は前月比+0.2%と小幅な伸びにとどまっている。



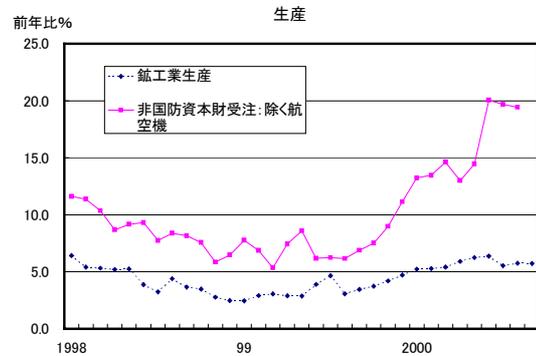
【消費】

8月の貯蓄率は0.4%となり、2月以来のマイナスになった。貯蓄率がマイナスとは、家計が借入の増加や資産売却で消費を行っていることを示す。9月の消費者信頼感指数は114.7と高水準で推移している。



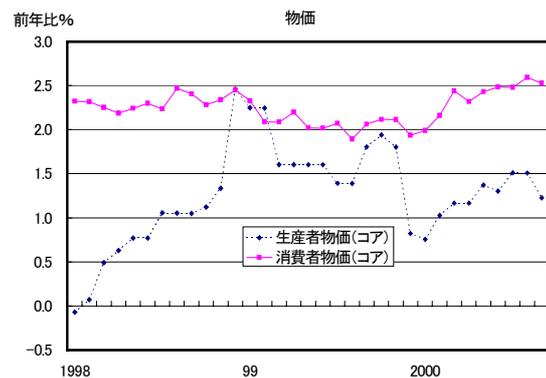
【生産】

9月の鉱工業生産は前年比+5.7%で、生産は今年以降同+5%を超える伸びが続いている。稼働率は82.2%で高水準横ばいが続いている。また設備投資の先行指標である非国防資本財受注は8月同+19.4%となった。海外からの受注増も背景に高い伸びが続いている。



【物価】

9月の生産者物価は前年比+3.3%、消費者物価は同+3.5%となった。原油価格の上昇の影響により今年以降伸び率は高まっている。しかし食料・エネルギーを除くコアインフレ率は、生産者物価が同+1.2%、消費者物価が同+2.5%となり、伸び率が鈍化した。



【国際収支】

8月の貿易収支は294億ドルとなり、前月比23億ドルの改善となった。年率では3533億ドル。輸入は前年比+17.4%と3月のピーク(同+25%)から緩やかな鈍化を示したが、輸出が同+16.4%と伸びを高めている。特に資本財が同+22.5%となり、IT関連受注の世界規模での拡大を反映している。

